

(様式 1) 実施報告書-プログラムB

団体名	長久手市
-----	------

1. 事業の種別	
該当の チェック	種別
	(1) 子ども向け日本語教育事業（対象外：プレクラス、日本語初期指導教室）
	(2) 多文化子育てサロン事業
	(3) 初期日本語教育事業（対象外：子ども向け日本語初期指導教室）
	(4) 地域の実態調査
○	(5) 地域日本語教育の推進計画策定又は改訂
	(6) その他
2. 事業の期間	令和 2 年 4 月 1 日から令和 3 年 2 月 26 日まで
3. 事業実施前の現状と課題	
<p>本市では、在住外国人数が年々増加し、1,100 人を超えている。本市でも増加する外国人住民に対する支援の必要性を感じているが、現時点では外国人支援に関する計画がなく、支援体制も十分整ってはいない。現在、市国際交流協会が大人向けの日本語教室を開催しているが、最近、外国人の子どもが親と一緒に来ているケースが増えてきており、対応に苦慮している。また、小中学校でも、日本語を全く話すことができない外国人児童生徒が入学するケースが発生しているが、市国際交流協会のボランティアが可能な範囲で対応している状態である。</p>	
4. 事業の目的	
<p>令和元年度は、外国人住民が抱える課題やニーズなど現状を把握するため、「日本語教育に関する調査の共通利用項目」を活用したアンケートを実施し、令和 2 年度は、その結果を基に、多文化共生の分野は多岐に渡るため、その中でも現時点でニーズが高い、地域での日本語教育と外国人児童生徒への日本語教育に焦点をあて、生活していく上で必要な日本語教育について検討し、計画策定を行う。</p> <p>そのため、本事業の補助金を活用し、外国人住民への支援を推進するための計画を策定し、市としての外国人住民への支援の方針を決定する。</p>	

5. 実施結果
事業の詳細（種別(1)(2)(3)） 該当なし
事業の詳細（種別(4)(5)(6)）
<p>【種別及び事業名称】</p> <p>長久手市多文化共生推進プラン策定</p> <p>【具体的な実施内容】</p> <p>1 長久手市多文化共生推進プラン策定委員会（3回開催）…別紙1のとおり</p> <p>(1) 概要</p> <p>大学等の有識者、企業、行政（愛知県、愛知県警）、教育委員会、国際交流協会、市民を交えた委員会を開催し、昨年度実施した多文化共生に関するアンケート調査の結果や、本市及び各団体における外国人の現状、課題等について話し合い、プラン策定に向けて検討した。</p> <p>(2) 開催日</p> <p>第1回 令和2年7月22日（水）</p> <p>第2回 令和2年9月30日（水）</p> <p>第3回 令和2年11月17日（火）</p> <p>(3) 内容</p> <p>別紙1（議事要旨）のとおり</p> <p>※市ホームページで公表</p> <p>第1回 https://www.city.nagakute.lg.jp/gyosei/shingikai_iinkai/1/2/9/10546.html</p> <p>第2回 https://www.city.nagakute.lg.jp/gyosei/shingikai_iinkai/1/2/9/13874.html</p> <p>第3回 https://www.city.nagakute.lg.jp/gyosei/shingikai_iinkai/1/2/9/13879.html</p> <p>2 あいち多文化共生タウンミーティング in ながくて（市民ワークショップ）…別紙2のとおり</p> <p>(1) 概要</p> <p>市民の意見を取り入れたプランとするため、テーマに沿って現状の課題や解決方法等を話し合うワークショップを開催し、出た意見をプランに反映させた。</p> <p>(2) 日時及び会場</p> <p>令和2年10月10日（土）午後2時から5時まで 長久手市西庁舎3階研修室</p> <p>(3) 参加者数</p> <p>41人</p> <p>(4) テーマ</p> <p>「地域および学校における日本語教育」</p> <p>(5) 内容</p> <p>別紙2（あいち多文化共生タウンミーティング2020 in ながくて開催報告）のとおり</p>

3 パブリックコメントの実施…別紙3のとおり

(1) 概要

プラン（案）について、市民に対して意見募集を行った。

(1) 期間

令和2年12月15日（火）～令和3年1月14日（木）

(2) 募集方法

パブリックコメントの実施にあたり、プラン概要説明会の実施や、長久手市国際交流協会運営委員会、日本語教室、多文化共生関係の活動グループに配布及び説明を行い、広く周知した。

(3) 募集結果

3人5件（別紙3のとおり）

※市ホームページで公表

<https://www.city.nagakute.lg.jp/machizukuri/jinken/tabunka/14115.html>

4 プラン策定

別紙4のとおり（本編、概要版）

※市ホームページで公表

<https://www.city.nagakute.lg.jp/soshiki/kurashibunkabu/tatsusegaaruka/matidukuri/jinken/14398.html>

6. 効果

(1) 効果

①定量評価

- ・実施した日本語教育人材に対する研修：（－）回（－箇所） 当年度（－）回（－箇所）
- ・実施した日本語教室：前年度（－）回（－箇所） 当年度（－）回（－箇所）

②定性評価

本市では多文化共生推進プランがなかったが、日本語教育を中心としたプランを初めて策定することができた。

また、プランを策定し、日本語教育が市として取り組む位置づけが明確になったことで、長久手市国際交流協会が実施する日本語教室が市からの委託事業となる方向で調整中であり、長年課題であった安定した会場確保が可能となる予定である。

(i)連携機関の広がりについて

策定委員会において、警察署、地元企業を加えたことで、プラン策定後も引き続き連携が図れるよう関係作りを行った。さらに、教育委員会と外国人児童生徒に対する日本語教育や学習支援について、スキーム作りの調整を始めた。

(ii)新たな連携機関と連携した内容

愛知県と市民ワークショップを共催で実施し、連携を図りながらプラン策定に取り組んだ。また、策

定委員会の中で、転入時に学校や日本語教室等の案内が重要と意見をいただいたため、市民課、教育委員会と打ち合わせを行い、転入する外国人に対する案内の徹底を確認し、情報共有を行った。

(iii) どのような体制を構築できたか

策定委員会では、大学有識者、地元企業、愛知県、警察署、教育委員会、国際交流協会ボランティアで構成し、会議の中で引き続き、担当課を中心として連携を図っていくことを確認した。

また、次年度もこうした委員会を開き、プランの進捗や情報交換を実施していく予定である。

(iv) 事業実施に当たっての周辺自治体や域内の関係者等へ周知・広報及び事業成果の地域への発信について

市民ワークショップは愛知県と共催で開催したため、市内だけでなく市外在住者への参加を呼びかけることができた。日本語教育に関心のある参加者も参加してもらうことができた。交換を行うことができる場となった。

また、長久手市国際交流協会の運営委員会や日本語教室など多文化共生に関する活動グループに対して、市民ワークショップの開催に加え、パブリックコメント、プランの概要説明を行い、プランの周知と理解を深めるよう働きかけた。

また、報道機関に対しても日頃からプランに関する情報提供を行ったことで、新聞記事として掲載された。

7. 課題と今後の展望

(1) 課題と困難な状況への対応方法

これまで日本語教育については、日本語教室等はボランティア活動の一つに過ぎなかったが、プランを策定し、日本語教育について市として取り組む事業であると明記したことで、これまで課題であった日本語教室の会場確保や、外国人児童生徒の学習支援のスキームづくりについて、調整を行いやすくなった。

(2) 今後の展望

ア 日本語教室のニーズ把握

新型コロナウイルス感染症の拡大により、日本語教室の学習者がこれまでの半分以下となっている。従前と状況が大きく変わっていることから、改めて外国人学習者へのニーズを把握し、どういった日本語教室が求められているのかを把握する必要がある。

イ 福祉、医療、防災に関する施策

今回は日本語教育に特化したプランを策定したが、会議の中で、福祉、医療、防災等についても外国人支援を考えていく必要があるといった意見が多くあがった。そのため、プランでは課題として明記しているため、改定時には、そうした課題や今回記載した施策について検証を行い、施策を考えていきたい。

【参考資料】